



今号の主な内容▶2面：東京清瀬市みつばちプロジェクト ブラッドオレンジ白あんジェラート／5面：マイナポイント第2弾

市内のお店を応援しよう

清瀬がんばるお店応援キャンペーン第5弾

総額  
7,680万円  
還元

市内対象店舗でのお買い物 1,000円ごとに300円分のチケットを配布!

(ドラッグストアなどは3,000円ごと)

市と清瀬商工会は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く市内の店舗を応援するための消費喚起事業として、お支払い額に応じてチケットを配布する「清瀬がんばるお店応援キャンペーン」の第5弾を開催します。6月から開催している第4弾と並行開催となります。第4弾とは内容が異なりますので、ご確認のうえご利用ください。☎清瀬商工会 ☎042-491-6648

- 【チケット配布期間】7月1日(金)～8月31日(水) (予算上限に達し次第終了します)
- 【チケット利用期間】9月1日(木)～10月31日(月)
- 【参加店舗】約200店 (詳細は商工会ホームページなどで公開します)
- 【チケットの額】お支払い額1,000円 (税込み) ごとに300円分 (ドラッグストアなどは3,000円ごとに300円分)
- 【利用上の注意】

- ・チケット配布の上限は1回のお支払い額50,000円 (税込み) で、最大50枚 (15,000円分) です。
- ・チケットの配布枚数には限りがあります。各店舗の上限、発行総額の上限に達した場合は、期間内であっても早期終了となります。
- ・金券など換金性や資産性の高いもの、切手、官製はがき、たばこ、ごみ指定収集袋、税金や公共料金、公序良俗に反するもの、事業上の取引などの支払いには使用できません。担保や質入れに供することもできません。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、事前に予告なく変更や中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・ご利用の際は混雑する時間帯を避ける、マスクを着用する、会話を控えるなど感染防止策の徹底にご協力をお願いします。
- ・店頭ではお店の方のご案内に沿って、スムーズにご利用にご協力をお願いします。



詳しくはこちら  
(商工会ホームページ)



キャンペーンポスター



チケット

令和4年第2回定例会 所信表明(要旨)

6月7日に開会した清瀬市議会第2回定例会で、4月に就任した澁谷桂司市長が、令和4年度の基本的な市政の運営方針や主要事業についての考え方を表明しました。

全文はこちら



澁谷桂司市長

組織改革と意識改革

私は、選挙期間中も申し上げてきましたが、まずは市の職員が働きやすい環境を整え、生産性を上げ、政策を実行していきたいと考えております。そこで、5月1日付で企画部内の組織の再編と、総務部情報政策課をDX推進課に改編いたしました。企画部では、持続可能な自治体経営に向けた行財政改革を力強く進め、戦略的かつ実行力のある体制を構築するため、その司令塔となる未来創造課を新たに創設いたしました。これまで企画課で担当していた行財政改革などの業務のほか、秘書

業務をこの課が担い、執務スペースも市長室に近い場所に移して、私との意思疎通を密に図りながら、新しい清瀬市を創造するエンジンの役目を担います。また、シティプロモーション課を新設し、広報業務のほか、郷土博物館と市史編さん室をこの課に組織することで、情報発信に留まらず、さまざまなプロモーション事業の企画立案を担ってまいります。

さらに、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進は、これからの行政経営には欠かすことのできない課題でありますので、情報政策課をDX推進課に改め、推進力の向上を図ってまいります。

そして、生産性を上げるためには、職員の意識が変わることが必要です。そこで、今回新たに設けた未来創造課とシティプロモーション課の職員について、職員のやる気を反映するとともに、職員の持つ能力を十分に発揮させるため公募制を導入いたしました。

さらに、持続可能な行政経営を進めていくためには、定型業務の委託化と、それにより生じる人員をクリエイティブな業務へ集中することが必要です。福祉や教育などが手厚く進めるべき業務と、デジタル化や民間に任せるべき業務を洗い出し、効率的かつ機能的な市役所の体制を整えてまいります。

ゼロカーボン宣言

近年、地球温暖化が原因とされる気候変動により、甚大な被害をもたらす自然災害が地球規模で発生しています。こうした状況は、安全・安心な市民生活に大きな影響を及ぼすものであり、温室効果ガスの排出量削減が喫緊の課題となっています。国では、2050年までに国内における温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目標として掲げています。

清瀬市でも、健やかに生活を営むことができる環境を保ち、未来へと引き継いでいくために、脱炭素社会の実現に向け、市民、事業者、市が協働しながら温室効果ガスの排出を削減し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指していくことを宣言いたします。この目標を達成するため、来年度は地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定し、昨年度改訂した同計画の事務事業編とともに市は、市民や事業者と一体となって取り組みを進めてまいります。

SDGsの実現

清瀬市が、あらゆる差別のない、すべての人にやさしいまちであるために、SDGsの実現に向け取り組んでまいります。

行政が行う取り組みは、すべてSDGsの実現に寄与することから、これまでも長期総合計画・実行計画に掲げる施策と、SDGsの目標との関連を明確にするなど意識的に取り組んでまいりますが、これらをさ

らに進めるため、現在実施している養蜂やウッドチップの生産などのエコプロモーションをSDGsの取り組みの象徴と捉え、新たに総務部にSDGs担当を配置いたしました。今後は、国が進める「SDGs未来都市」への採択を目指して、さらに具体的な取り組みを進めてまいります。

子育てが楽しいと思えるまちづくり

1つ目は、紙おむつとお尻ふきの定額サービス「手ぶら登園」のシステムを、4月から公立保育園で導入いたしました。希望する保護者が毎月一定額を事業者を支払うことで、紙おむつとお尻ふきが制限なく使えるようになります。毎日名前を書いて持参するという手間を省くことができ、保護者の負担を減らすことができるようになりました。

2つ目は、弱視などの発見が瞬時にできるスポットビジョンスクリーナーを4月の3歳児健診から導入し運用を開始いたしました。

これまでの熟練した視機能訓練士の検査に加えて、この機器を活用することにより、さらに精度の高い検査が可能となります。

3つ目は、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行う子育て世代包括支援センターの機能をさらに強化するため、スマートフォンアプリを提供いたします。電子母子健康手帳としての成長記録機能やAIによる予防接種スケジューラー、市からの子育てに関する情報の掲載など、妊娠期から子育て期にかけて支援するアプリを10月から配信できるよう準備を進めてまいります。